



高崎高校同窓会報

2018
No.52

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024

平成30年11月30日

俊英287名、創立121年目の「学び舎」に入学す



あの先生の本名知つてますか？

人間集まれば必ず渾名が生まれ、それはユーモラスだったり、残酷だったり、畏敬の念だつたりと、それを創出した集団のセンスや素養が分かるのだが、昨今の渾名はタッキー、キムタク、ウツチー等名前をもじつたものが多く、面白味がない。それと比べ 1940(昭和 15) 年代のわが高高では、恐れ多くも先生方に片つ端から渾名を奉り、その多彩な「ニア」ンスを楽しんでいた。それが高じて、職員室へ先生を訪ね、その名前が出ずつさに渾名を口走つてしまい、大目玉を食らつたなんて話はたびたびのこと。

恐れ多くも渾名が「天皇」、世が世ならば不敬罪に問われそうなこれが奉られたのは生物の T 先生。当時天皇は現人神から人間へと変身し、その動向がメディアに露出するようになり、その風貌・举止が T 先生そつくり。先生は高高一筋 39 年最長不倒距離保持者。戦意高揚を鼓舞する戦争中、その流れに乗り切れない感じの国語の Y 先生は「ペシミスティック」、短縮して「ペシ」。夏目漱石「坊ちゃん」で「うらなり」とこと古賀先生の「青白く」「氣弱」「消極的」にイメージがぴたりの漢文の S 先生は、そのまま「うらなり」。試験問題がユニーク。新科目世界史の初っぱなに出てくる「ピテカントロップス エレクトウス」を初めて聞いた生徒は、これを早く使ってみたかった。そこで担当の T 先生をその風貌から「ピテカン」。

漢文 S 先生 ▶



▲化学 N 先生



▲体育 T 先生

一般社会の S 先生は、朝鮮戦争で奮闘する中共軍兵士が眼前に現れたようで、ずばり「中共」。これはわが学年の命名。数学の Y 先生は「ガチ」、授業にはいつも篠竹携行、問題が解けないとこれでガチン。同じ数学の O 先生はその発声が「カア」という感じで「鳥」、妙にピタリと合っていた。丁寧に教えてくれ赤点はくれなかつた。きわめて紳士的な日常と、怒りの信管がはずれた時のギャップが激しいのは化学の N 先生、怒った瞬間にエキセントリックな罵声と、高速チヨークが飛んできた。この恐怖から「狂犬」を奉る。同じく化学の Y 先生は「エーカー」、「エーカ、分かつたか」。



▲一般社会 S 先生



▲生物 T 先生



▲国語 Y 先生

の「口癖」と「ビーカー」を組み合わせた。先生ののどかな授業を彷彿とさせる。体育の T 先生は小顔、小柄、色黒でその風貌がら「マンキー」、これをモンキーと言わないのがセンスというもの。愛すべき毒舌で人気者、ラグビー部の生みの親。当時の人気映画「ターザン」主演のジョニー・ワイズミュラーの如く長身色黒筋肉隆々なのが体育の T 先生、ずばり「ターザン」。

以下渾名のみ。「衣紋掛け」「ブル」「おはー」「ドジ」「鍾馗」「花子」「どぶ」「おまえさん」「メチ」「キャンディー」「がま」「ピーちゃん」「馬ちゃん」「熊」「ポテ」等々。

なお、由来については諸説があるので、いちいち詮索するのも一興。先生方返す返すも失礼をばいたしました。恐々

(編集委員 田端 穂)

ご挨拶



高崎高等学校同窓会長(67期)

串田 紀之

平素より同窓会会員の皆様におかれましては母校への多大なご協力、ご支援を賜り心から敬意を表します。

さて平成31年1月26日午後3時よりホワイトイ高崎に於いて開催されます「第117回新年総会」に向け、当番期(88期)の亀田慎也君を代表とする皆様方に準備を進めて頂いておるところでございます。会員の皆様には是非とも万難を排し、御出席を宜しくお願い申し上げます。総会の議事で役員改選があり、私の任期も終わろうとしております。

本校は明治30年に市内赤坂にあります長松寺を仮校舎とし、群馬県立尋常中学校群馬分校として創立しました。その後、昭和13年に上和田町の地より現在の高崎市八千代町に校舎を新築移転し、昭和23年に群馬県立高崎高等学校としてス

タートを切りました。以来輝かしい歴史と伝統を重ね、有為な人材をあまたに輩出しました。任期中の平成29年に創立120周年を迎え、創立記念式典を挙行するにあたり、「創立120周年記念事業委員会」を立ち上げ、委員長に就任させて頂きました。

会員各位の御協力・御指導を仰ぎ、滞りなく平成29年5月20日に音楽センターに於いて開催された記念式典を終えることが出来ました。歴史と伝統のある母校に同窓会長とし立ち会えたことは、掛け替えのない一生涯の宝です。これまで支えて下さった皆様に感謝申し上げようがありません。すでに次の節目に向け歩き始めています。文武両道を標榜している母校の歴史と伝統が、さらに輝けることを祈念し、御挨拶と致します。



高崎高等学校校長(78期)

加藤 聰

本校校長2年目を迎きました。常日頃から、同窓会員の皆様には、様々な場面で本校の教育を支えていただいていることに感謝を申し上げます。

さて、去る6月上旬に今年度の翠巒祭が開催され、過去最高の17,556人のお客様をお迎えすることができました。毎年開催されている上に、好天に恵まれたということもありましたが、本当にありがたいことを感じました。歴代、翠巒祭のスピリットがしっかりと継承され、お客様を迎える気風が大いに浸透してきたと思います。

先日、大相撲の春日野部屋の栄ノ心関が大関に昇進しました。そして、このことを伝える新聞記事の写真に目をとめました。大関昇進を称えて集まった人の中に、先代の春日野親方(元横綱栄ノ心)の「花田さん」という名がありました。私の年代ですと、春日野親方は元横綱大鵬とほぼ同

時代の栄の海関になります。この写真を見て、名門春日野部屋は脈々と続いていることに感慨を新たにしました。

常日頃から、1人1人の同窓生が高崎高校に独自の思い入れを持ち、その思い入れの集大成が脈々と続く高崎高校の気風を形作っていると考えています。

そして、高崎高校の気風を表す表現はいろいろあると思いますが、私は「友と作りあげるひたむきなエネルギー」だと思っています。

今年度も、校歌の歌詞にありますように、高崎高校の「伝統」が「更に榮え」、「未来」が「燐と輝く」よう、全職員で日々取り組んでまいります。

同窓生の皆様には、今後とも本校の教育活動へのご理解とご支援をお願い申し上げ、ご挨拶と致します。

日本の情報発信の推進

(株)世界出版 代表取締役

茂木 弘道



日本語ができれば世界中の本が読める

すでにご存知のかたもいるだろうが、日本語はある意味で世界一の国際語なのである。

英語こそ今ではダントツの国際語と誰でも思っているし、それは事実である。現在世界には200近い独立国があるが、そのうち50カ国は英語を公用語にしている。ビジネスの世界でも英語は世界の実質的な共通語となっている。

しかし、では英語ができればギリシャの古典は何でも読めるかというと、実はそうでもないのである。ギリシャの古典、フランス、ドイツ、ロシアその他世界中のこれといった国の中重要な書籍を最も大量に翻訳しているのは実は日本語なのである。つまり、日本語さえ読めれば世界のこれといった本はほとんど読むことができる、というのが実態なのである。

さらに、近代欧米文献を日本語に翻訳したもの学んだ中国の留学生は、これを中国に持ち帰り、その翻訳された漢字の語彙を中国語に大量に採用した。共産主義のどの漢字ももともとの中国語であるが、共産も主義も漢語にはなかった語彙で、日本製の翻訳語なのである。王彬彬南京大学教授は現在中国で使用している社会・人文・科学方面の名詞述語の70%は日本から輸入したものであると論文の中で書いている。(「現代漢語中的日語“外来語”問題」)

なぜこのようなことになったのか? 幕末明治以来日本人が西洋文明の導入にすさまじい努力を嘗々として行ってきたからである。世界に例を見ない赫々たる成果を挙げたのである。

著しいアンバランスとしての貧弱な情報輸出

しかし、この成功例には負の面が伴っていた。西洋文明導入という情報輸入はよいのだが、日本情報の輸出という側面は著しく軽視されていたことである。一部には、岡倉天心、内村鑑三、新渡戸稟造のように英文の書籍を海外に発信した先覚者もいた。しかし輸入・輸出バランスは100対1、あるいはそれ以上の開

きであったであろう。

現在でもその傾向は続いている。その端的な例を挙げると、文科省の学者の業績評価である。海外のものを日本語訳すると評価の対象になるが、その学者の論文・書籍が外国語に翻訳されていても評価の対象外なのだと、世界的な言語学者の鈴木孝雄教授はいっている。

こうした情報発信の立ち遅れをなんとかできないかと前々から考えていた。これを出版という形で実現しようという構想がだんだんできてきた。競争力の決め手を「漫画」とするアメリカでの出版企画書をまとめてみた。なぜ「漫画」であるかというと、日本の漫画は戦後すさまじい発展を遂げ、圧倒的に世界最高の水準になっているからである。文学、歴史、哲学、科学技術をもカバーする総合ジャンルとしての「漫画」は、世界中のどこにも存在していない。日本物出版の軸にこの漫画を活用しようと考えていたわけである。

『漫画人』の刊行に参加 一 (株)世界出版を設立

こんな構想を友人たちに話しているうちに、『漫画人』という日本の漫画を英語に対訳して、「日本語学習」と「日本の大衆文化理解」のための雑誌を企画しているアメリカ人がいることを教えてもらった。ボーン・シモンズという男で、日本滞在中に日本漫画に出会い開眼したという。日本語翻訳が専門で、漫画を直接に読みこなす能力を持っていたからである。

当初はこれという漫画を翻訳したものをアメリカで大量に販売していくことを考えていたというが、それだけではまだ漫画の認知の進んでいないアメリカでは成り立たないだろう、日本語学習誌にしたらどうだろう、というアイディアから『漫画人』は生まれたわけである。漫画人、Mangajin(雑誌)の誕生である。20年ほど前のアメリカで日本語学習はある種の流行になっていたという事情もあったのである。

Mangajin, Inc.(アトランタ)はすでにサンプル誌を完成させており、これはいけると判断して共同出資者となった。同時に日

本側に(株)世界出版を設立し、出資会社であると同時に、この雑誌の日本での販売、漫画の版権取得、雑誌企画への参加を行つて行くこととなったのである。

『漫画人』は、アメリカの大学、ビジネス界などで高く評価され、広告は全くしなかつたが、大手書店、大学書店などにかなり置かれ、順調に売れていった。ハーバード大学の書籍コーナーには平積みで置かれていた。日本では、外国人の日本語学習向けだけではなく、むしろ主に英語学習誌として売れた。これを大学、高校の英語教材としてプロモーションをするうちに、英語教育に関わることになり、後に『小学校に英語は必要ない』(講談社)、『文科省が英語を壊す』(中公新書ラクレ)といった英語教育関係書を出すといったおまけも経験した。

『漫画人』は、日米合わせてピーク時には3万部くらい出た。しかし、広告収入がままならず、収支が苦しいことに加え、その後アメリカでの日本語熱の低下などのために、残念ながら70号で休刊を余儀なくされた。漫画人社では書籍の出版も計画していたが、実現したのは3冊ほどで、その一つは『The Essence of Modern Haiku』(山口誓子自選集)である。これは、外務省が注目し、サミットが日本で開かれたときに買い上げて参加者に配布してくれた。

「史実を世界に発信する会」の立ち上げ

会社の方は、『漫画人』が休刊してしまったので、抱えていた日本語を英語に翻訳するネイティブ翻訳者グループを活用して日本語→英語翻訳を主業務にしながら、機会を見つけて英文出版することにした。

『What Really Happened in Nanking』は、南京問題研究の大作家である田中正明氏の『南京虐殺否定15の論拠』を英訳したものであるが、共鳴する方がこれをアメリカの「アジア研究協会」のメンバー5000名に送ってくださった。かなり反響があり、カリフォルニア大サンディエゴ校の教授からは、100部寄贈してくれればテキストとして使いたい、との申し出があった。送ったところ、半年ほどして学生の感想レポートが届いた。これを読んで考えを変えた、という学生は20%ほどであった。そう簡単ではないが、効果があることを確信した次第である。

アイリス・チャンの『レイプ・オブ南京』をきっかけに、一般的な情報発信もさることながら、日本の名誉に関わる歴史問題の情報発信の緊急性を痛感するようになった。南京虐殺など調べれば調べるほど全くの捏造であることがわかつってきた。何しろ、南京に入城した軍を追って150名もの記者・カメラマンも入城し、城内くまなく取材しまくっていたのだ。そして朝日新聞などは一週間後の12月20日からフルページの組写真特集を連載しているのである。ちなみに連載のタイトルをみると「平和甦る南京」「きのうの敵に温情」「南京は微笑む」「手を握り合って越年」「五色旗の下に」等々となっている。南京は城壁に囲まれ、山の手線の内側ほどの広さしかなく、取材は容易である。大量虐殺が行われていてこんな事はどう考へても不可能である。正確な史実を収集し、英文で世界に発信していかないと、全くの捏造情報が世界に流通し、日本は誤解などという程度にとどまらず、徹底的に貶められてしまうのだということがよくわかる。

出版にこだわるより、インターネットの時代なので、英文にさえできれば、容易に世界に発信できる。ということで、路線転換をし、同窓の士を糾合して「史実を世界に発信する会」を作ろうではないか、ということになった。

幸い代表には外交評論家の加瀬英明氏(父君は開戦時の北米課長で、戦後初代国連大使を勤めた加瀬俊一氏)がなってくださいり、顧問には渡部昇一、小堀桂一郎、日下公人、長谷川三千子、杉原誠四郎、百地章、ペマ・ギャルポ、石平等々の諸先生が名を連ねてくださった。

平成18年(2006年)「史実を世界に発信する会」(Society for the Dissemination of Historical Fact)が発足した。

英文の歴史アーカイブズの構築を目指して

南京問題にしても慰安婦問題にしても、不当な批判が起こった時に、ただちに英文で反論していくことは絶対的に必要なことである。しかし、英文による論争において不可欠なものとして、英文の文献の引用がある。これなしでの反論では勝負にならない。なぜ、南京、慰安婦等の問題で日本が遅れを取ったのかというと、論争が起こった時に、それに関する文献資料が英文でストックされていなかったということが最大の理由である。

これまでに、海外マスコミ、国連、アメリカ議会、議員その他に抗議文、反論文等を送ってきたが、同時に根拠となる歴史文献の英訳版を発信する会の英文サイト(<http://www.sdh-fact.com>)に蓄積してきた。南京事件だけで、書籍6冊、論文、主張等は30点を超えており、慰安婦問題、尖閣問題、竹島問題、日中戦争、東京裁判ほか全体では、書籍23点、論文、主張、書評等を合わせると、150点ほどになる。東京裁判については有名な『パル判決書』の全文700ページが掲載されている。かなりアーカイブズらしくなってきた。

資金はすべて有志の寄付で賄っている。現在約1000名の会員・支援者がいて会の活動を支えている。日本語版のサイトは <http://hassin.org> である。ご賛同する方のご支援をお願いする次第である。

◆PROFILE◆

茂木弘道(もてき・ひろみち)

昭和16年東京都生れ。東京大学経済学部卒業。富士電機、国際羊毛事務局を経て、平成2年(株)世界出版を設立。「史実を世界に発信する会」会長代行。著書:『小学校に英語は必要ない』(講談社)『文科省が英語を壊す』(中公新書ラクレ)『戦争を仕掛けた中国になぜ謝らなければならないのか』(自由社)。訳書:『「太平洋戦争」は無謀な戦争だったのか』(ジェームス・ウッド著)(WAC)『「放射能」を怖がるな』(T.D.ラッキー)(日新報道)。共著:『日米戦争を起こしたのは誰か』(勉誠出版)ほか。



乗附時代を顧みて



前列右から4人目

元群馬県教育委員会委員長

山田 富二

「平成三十年七月七日」高崎高校四十九期卒の同窓会が開催された。米寿を翌年に控えた者達なので十数名の出席かと思っていたが何と、二十六名の出席を得て賑やかな楽しい同窓会になった。実は昭和二十五年に始まったこの同窓会は、毎年七月の第一土曜日開催ときめて、今回で六十八回を数えるに至った。これは我々四十九期同窓の団結力の強さを示すもので、同期生全員にとっての誇りである。顧みれば「我々の高校時代」と云うよりは、中学高校を通した乗附時代と云うべきだろう。戦時中旧制中学で入学し、終戦を経て新制の高等学校になり都合六年間を同期生として送ったわけで、それでより強い友情の絆が生まれたといえる。そしてその六年間は戦中戦後の混乱期であったので、波瀾万丈の乗附時代であった。中学一年のとき、農家へ泊り込みの勤労奉仕に出され、田植え、稻刈り、野菜づくり等々、農業の一端を手伝ったが、中でも芋掘りの楽しかったことを思い出す。掘った芋をその場でかじって食べた味のおいしかったこと、当時の我々にとってのビフテキであったのかも知れない。

戦時中は日本中が空襲を受けたが、高崎も終戦間近の時に空襲に見舞われ、我が家も家中で防空壕に逃げ込んだが、母親が「ナムアミダヅツ」を唱えていたのを思い出す。

戦中戦後を通じて食糧不足、電力不足がひどく、農家出身の友人が持参した麦飯弁当を四人五人で廻し食いをしたり、数人が集まってローソク一本の下で試験勉強をしたこと等、不自由な時代であった。が、今振り返ると、それ等は忘れることの出来ない懐かしい想い出でもある。

戦時中は敵國の英語は使用禁止となり、野球での「ストライク」は「よし」ボールは「ダメ」と云った馬鹿げた時代で、英語廃止論さえ出た。しかし終戦と共に英語の出来ない者は学生に非ずという大きな時代の変革期が訪れ、我々にとつ

ては全く異なる別世界を経験したわけで、それはそれで貴重な経験であったのかも知れない。

昭和二十年八月十五日、天皇陛下の玉音放送があるというので、大勢が集まつた街なかでラヂオ放送を聞いた。日本が戦争に敗けることはないと信じていただけに、敗戦の放送を聞いたときは、戦争が終わった喜びは無く、敗戦のくやしさとこれから、どんな世の中になるのかとの不安ばかりであった。

終戦とともに新しい教育制度によって我々は新制の高等学校生になったが、当時は市内の者は自転車通学は許されず、私も九蔵町の自宅から約五十分の道のりを歩いての通学であった。冬場は聖石橋で北風に吹かれ、夏場は強い照りつけも受けながら、みんな元気よく歩いた。当時の乗附は現在の様な民家を始めとする建物はなく、一面原っぱであったが、遠くに榛名、妙義、浅間を眺め、近くに観音様を見上げながらの風景は我々の心をいやしてくれた。

さて、七月七日開催した四十九期同窓会、それぞれがいろいろな話を持ちよつての楽しいひと時であった。「終戦があと三、四年延びていたら、戦争にかり出されて我々も命がなかったかも知れないな。」との話やら、「カンニングがばれて落第点になった」こと等々。

中には「出席者が一人になっても四十九期同窓会は続けよう。」と云う者もいた。

同窓会も終わりが近づき、最後に校歌、応援歌、級会歌を合唱した。特に級会歌の四番「級の友よ我が友よ、忘るるなかれこのうたげ、我らの旅の終わりまで長き旅路の一時も」の歌詞は現在の我々の心境を表しているもので、歌いながら胸にじーんとくるを感じた。

学友とは良いものだ。そして我々の人生にとってかけがえのない宝物である、と感じる今日此の頃である。

寄 稿

69期



定期戦番外編

群馬県教育文化事業団理事長(前群馬県教育委員会教育長)

吉野 勉

昨年までの戦績は、高高の「41勝24敗3分」。私は、生徒として3回、高高教員として5回、前高校長として2回定期戦に関わりました。その時代ごとの思い出を少し記してみます。

○高高の生徒時代(昭和42年~45年)【高高1勝2敗】

私の所属したサッカーチームは県内では常に上位で、2年時には国体にも出場しました。ですから定期戦の部対抗では楽勝のはずですが、前高にはまだサッカーチームがなく、我々サッカーチーム員は、陸上競技や卓球などの一般対抗に出場するしかなく、印象に残ることはあまりありません。しかし、3年時は高高会場で、騎馬戦の審判の一人として両校の大乱闘を鎮圧する役で動き回ったことや、前高生が、負けた腹いせに教室の羽目板をあちこち蹴破ったことを覚えています。

一番印象深いのは、TBSラジオの深夜放送「パックインミュージック」で、両校生徒による投書(今ならメール)による定期戦(中傷合戦)が繰り広げられ、「タカタカ、マエタカ」が全国的に有名になったことです。大学入学直後に県外出身者から「あのタカタカ」と言わされたのに驚きました。

○高高の教員時代(昭和57年~63年)【高高4勝1敗1中止】

赴任前から騎馬戦の廃止は承知していましたが、男子高校生が競うものとは思えない「玉入れ」が種目となっていることに驚きました。が、実際の競技を見て、奥が深く、本腰を入れて取り組むに値するものであることが理解できました。

サッカーは、全体の勝敗を左右する部対抗戦最後に組まれることが多く、顧問としては、負けるわけにはいかないし、同時期に選手権県予選が進行中なので選手起用に苦労しました。引退した3年生を起用して辛勝したこともありました。

昭和58年には「あかぎ国体」の開催により、やむなく中止となり、生徒が大いに残念がったことを思い出します。一般対

抗では前高がリードし、後半の部対抗では高高が逆転するのがパターン化し、あまり負けた記憶がありません。

○前高の校長時代(平成22年~24年)【1勝1敗】

教員生活の最後の2年間をライバル校の校長として勤務しました。4連敗中の前高では、生徒、教職員が汚名返上に燃えるのは分かりますが、PTA役員が最も過熱しているのは異様でした。「校長はきっと高高を応援するのだろう」と公言する卒業生や生徒もいました。そうした場合、私は常に、「大将を信頼できないような集団では戦に勝てないのは当然だろう」と回答していました。

生徒の潜在能力や団結力には目を見張るものがあり、勝利を確信して高高会場に乗り込んだ1年目は、惜敗し5連敗。兄弟そろって勝利を味わうことなく卒業という気の毒な家庭もいくつかあり、申し訳なく思いました。

2年目は、会場校として準備万端で高高を迎、必死に戦い、久しぶりの勝利に関係者が狂喜乱舞し、その勢いで、その年度の大学進学実績でも大きく水をあけることになりました。そのことで、高高同窓会員の一部から、「前高の進学実績向上に荷担するとは、何を考えているのか」と嫌味を言われたこともあり、こんな了見の狭い卒業生がいることを残念に思いました。

現役生には、定期戦をはじめ、良いライバルとの切磋琢磨を通して、文化部も含めた部活動や進学実績で、県外の高校をはるかに凌ぐ結果を出し、両校の歴史と伝統を一層輝かしいものとしてもらいたい。そして、卒業生は、両校生徒の鑑(かがみ)として、尊敬・信頼できる社会人であるよう努めたいのですね。



「少年易老」などと 言っている場合ではない

独立行政法人 地域医療機能推進機構(JCHO)群馬中央病院 院長

内藤 浩

私たち79期が高崎高校に入学したのは昭和52年です。この年を検索してもあまりパツとした事件はないのですが、安室奈美恵さんが生まれた年だそうです。彼女は今40歳ですので、恐ろしいことに、高校に入学して40年もたってしまったことになります。漢文の掛川先生からいただいた膨大なプリントの中に「少年易老學難成 一寸光陰不可輕…」という漢詩があったと思いますが、まさに光陰矢の如し、です。

私は、埼玉県の児玉町から越境で入学しました。当時、私たちの中学校から群馬の高校へ行く人はほとんどいなかつたのですが、中学校の恩師が群馬県の出身で、高崎高校を勧めてくれ、おかげで誇り高い「高々生」になることができました。

高々の3年間は、本当に充実して毎日が楽しく、今でも鮮明に思い出せる思い出がたくさんあります。

まず個性的な先生たちの魅力的な授業が、田舎の中学校から来たものには新鮮でした。数学の増村先生の「いいかい諸君、こんな因数分解は一気に見抜いて…」で数学に引き込まれ、前出漢文の掛川先生の「長恨歌を丸暗記」で漢詩の美しさを知り、自己紹介「上から読んでも下から読んでも、ぼくはぼく。もう忘れないね」の地学の久保先生には地学部で3年間お世話になりました。2年間担任していただいた化学の石北先生との数々のエピソードは、同級生の絆を深める大切な思い出です。

高々ではまた、友人たちとの思い出も事欠きません。修学旅行、翠巒祭、前橋高校との定期戦など、大きなイベントはもちろんですが、日常のクラスでのたわいない会話や事件も大切な記憶として残っています。

高々の生活があまりに楽しいので、朝7時3分発の八高線に一度も乗り遅れることなく、3年間無遅刻無欠席でしたが、ある授業を眠り続けていたら早退扱いにされてしまい、皆勤

賞はいたただけませんでした。人生最大の失敗の一つですが、さる先生が氣の毒に思ってくれ、ドイツ語の辞書をプレゼントしてくれました。

卒業後は群馬大学の医学部に進学し、消化器外科医になりました。ちなみに79期は医学部進学者が多く、そして、専門がバラバラです。卒後35年の同窓会幹事の時に救護班を作りましたが、麻酔科、糖尿病内科、心臓血管外科、脳外科、消化器外科、耳鼻咽喉科、眼科等々、総合病院ができるほど多彩です。おかげさまで、わからないことがあるとすぐに専門家に相談でき、とても助けてもらっています。

今年の4月からは、前橋にある群馬中央病院の病院長になりました。内科や外科など25の診療科がある大きな病院ですが、その分課題も多く医学と関係ないさまざまな問題にも取り組まなくてはなりません。経営的なこと、建物の建築や保守・点検、法律的なこと、あるいは行政・政治に絡むこと、などなどです。中にはデリケートな問題もあり、相談する相手を選ばなくてはならないのですが、そんな時に頼りになるのが「79期」です。問題を解決しようと相談先を探していると、不思議と(必然的に?)同級生に行き着き、親身の助言、支援をいただけ、助けてもらっています。

最後に、今私が取り組んでいるのは、「地域包括ケアシステム」といって、高齢になっても元気に暮らせる地域作りの支援です。これからの日本は、未曾有の超高齢化社会になっていきます。卒後40年程度で「少年易老」などといっている場合ではありません。行政や企業と医療業界が緊密に連携して、超高齢化社会で必要とされる新たな事業やサービスを構築し、地域社会を守っていかなくてはなりません。同期、同窓の方々には、今後もいろいろご相談させていただくことが多いと思いますが、よろしくお願い申し上げます。

寄 稿

99期



右側前から4人目

2018年4月、家業を手伝うために卒業以来生活していた東京から高崎に戻ってきてほどなく、本報への寄稿の依頼を頂きました。光栄に思いつつも、自分よりも適任者がいるのではと葛藤にかられましたが、なかなかない機会ですので寄稿させて頂きます。

高校生活には多くの思い出がありますが、特に思い出に残っているものに部活動があります。中学時代はバスケットボールをやっていましたが、高崎高校のバスケットボール部は非常にレベルが高く(3年生の時には県大会で優勝し、全国大会に出場していました)、入部を断念。運動部で打ち込めそうなところを探していたところ、弓道部に出会いました。①運動部:②日本の伝統的・文化への興味:③浜川弓道場で高崎女子高校の生徒と合同練習=1:1:8という明快な理由から、入部。通常弓道部といいますと、やや文系よりの落ち着いた生徒が主流で、同期、先輩後輩にもそういった性格のメンバーが一定数いたのですが、こと自分の同期に関しては中学時代にサッカー、野球、バスケットとメジャー運動部出身の生徒を多数含む16名が入部し、およそ弓道部らしからぬ弓道部員が揃った世代でした(本題とは逸れますぐ乾と巽が同時に入部したことにも触れずにはいられません)。

もちろん、練習は一生懸命やりましたし、2年生の時には高校総体で優勝し、明治神宮に弓道場があることもそこで初めて知ったのですが(顧問のA先生が青山学院大学出身だったためかなり学生時代思い出のあるエリアだったようで、大会後に僕たちを相当案内したがっていましたが、固辞すると随分とさびしそうな顔をしていました)、むしろ本来の部活動以外の出来事の方が思い出深いです。例えば大雪が降ったある日。弓道場では屋内から28m先の的に目掛けて弓を引きますが、その間にある芝生には大量の雪が積もっていました。気もそぞろにしていた練習を早々に切り上げ、全員で雪合戦。浜

行け!高高弓道部

乾小児科内科医院副院長

乾 恵輔

川での練習時には袴を履いていたのですが、その裾を両手で持ち上げて走り回りました。

校内の宿舎を利用し行った夏合宿では、夜間にプールに忍び込み男だらけの水泳大会を開催。大はしゃぎしていたところ、当然近隣の方から通報が入り、警備員さんが見回りにやってきました。遠くから徐々に近づいてくるライトの光から事態を察知し息を潜めるものの、当然やり過ごせる訳もなく、さらにライトは近づいてきます。絶対怒られる、後で呼び出しだ、完全に終わった、と戦々恐々としていたところ「おい…静かに騒げよ」と矛盾に満ちた名言を残し、警備の方は去って行きました。あまりの奇跡に胸を震わせながら皆で静かに騒いだことは言うまでもありません。

青春時代を共に過ごした彼らとは卒業後、特に仲の良かった7人で年末年始集まることが毎年恒例となりました。互いの学生生活を報告しあっていた大学生は、社会人となり、各々の結婚式に袴を履いて余興をし、子供の誕生を喜び合う、そんな関係が続いている。この素晴らしい出会いをくれた高崎高校には感謝の念に堪えません。中学生からの付き合いの者も含め皆付き合いは妻よりも長く、群馬に残っている者は半分以下で北は北海道、南は九州まで、一時は海外駐在員まで。高校時代と比べ一様にふっくらとしたお腹まわりを抱えながらこれからも毎年集まって語り合い、ともに年を重ねて行きたいと思っています。

お盆を過ぎた8月某日。月末に迫った締め切りを前に、作文書きたくない、全然文章浮かんでこない、どうしよう、と学生時代と同じように悶絶しながらこの文章を書いています。何かヒントになるものがないかと久々に開いた卒業アルバムには懐かしい顔が溢れています。時間が経て熟成された、しかし決して色褪せてはいない様々な思い出が蘇りました。こんな機会にみなさんも久々にアルバムを開いてみてはいかがでしょうか。

ホームページ上では電話番号や住所等は掲載しておりません。

◆◆掲示板◆◆

同期の皆様へ

49期 高橋 一夫

49期同窓の皆様、我が49期は毎年7月の第1土曜日に同窓会を開催して参りました。

来年は、米寿の記念同窓会となります。多数の皆様の参加を期待して居ます。懐かしい顔の集いに青春の息吹を感じてみませんか?

50期 八木 資親

同期生全員が八十路半ばを超えた現在も、定期的に同期会を開催する仲間を持ったことを、大変嬉しく、誇りに思っている。最近、訃報と身体の不調を訴える声が多いが、これもまた現実か。諸兄の益々のご健勝を祈る。

52期 古関 武

名門高中に入学せんと勉学に励み、念願叶えど高中は新制高崎高校となり、私はその第一期と相成った次第。思い出す青き日々。今、上州の山々、後輩諸君の雄姿を眺む。それも良し。天下の名門高高よ永遠なれ、光輝け。

56期 立見 壽士

五六会の諸君、恙なくお過ごしでしょうか。
我々も愈々今年80歳・傘寿です。
残念乍ら今年も3名の訃報が届きました。
来年1月26日の同窓会には是非ご出席下さい。再会を楽しみしております。

57期 山口 保男

高校を卒業しまだ学生であった頃に学年の同窓会を3年続けて行いました。最初は100人位集まり結構楽しかったと記憶していますが、3年も続きますと半分半分になり4年以後暫く休みになりました。その後又同窓会をしたくなり今日に至っています。

58期 佐藤 義夫

皆様お元気でお過しの事と思います。新年会が来年1月26日に決まりました。詳細は後日送りますが傘寿を間近にし又、平成最後の会でもあり思い出の楽しい宴にしたいと思います。多数の参加をお待ちしています。

61期 友松 敬三

東京61会が6/1近辺、12/30に忘年会、1/26(土)に全体同窓会、秋口には伊香保と一年を計画しております。皆元気でいることが大事ですが、少しずつあちらの同期会に行っております。いつまでも仲良く元気で会いたいと思う今日このごろです。

62期 飯塚 孝

高高62期生の皆さんお元気ですか。62会の同期会を毎1月の最終土曜日に恒例開催しています。高高を巣立って早55年。懐かしい友垣と昔に帰り楽しく語らいませんか。多くのご同輩の奮ってのご参加をお待ちします。

63期 羽鳥 修司

今年は、二月に原威道君、三月に佐藤正敏君と立て続けに訃報が入りました。この歳になれば仕方ないのかもしれませんのが寂しい限りです。秋には63会を開催したいと思います。多勢のご参加をお待ちしております。

68期 梅澤 寛

<68期の皆様へ>

30数年前から毎年1月に同期会、6月と11月にゴルフコンペを担当幹事のご尽力により続けて開催しています。また東京地区の同期会も活発に行われています。初参加の方も増え大変楽しいです。是非お出掛け下さい。

69期 阿久澤 茂

母校の鯉のぼりが、だいぶ痛んできたので69期より寄贈しました。来年の同窓会総会は88期担当で1月26日にホワイトインで、69期同期会も同日「魚とし」で行います。大勢の参加を期待しています。

71期 坂本 正樹

原則奇数月の第3木曜日と偶数月の第3土曜日18時頃から、井野駅前のオリーブ(同期植原豊君経営)に10人位で集まっています。連絡は佐々木君まで
spaghetti-you@

76期 須郷 弘

高高76期生は今年還暦を迎えます。七六会と名を付けてオリンピック年に4年に1度の同期会を開催してきましたが、今年は6月2日に伊香保温泉塚越屋で還暦祝い七六会を開き、楽しいひとときを過ごしました。

77期 松本 基志

77期の皆さん、お元気ですか。高高を卒業して今春で40年、来年は還暦です。卒業して10年目で第1回同窓会を開催。4年毎の開催なので、次回は東京オリンピックの開催される2020年。楽しみにしています。

ホームページ上では電話番号や住所等は掲載しておりません。

メッセージ

◆各期代表幹事◆

78期 高橋 浩生

78期の皆様、同期の加藤校長のバックアップ感謝しております。加藤校長は、我々の現役時代の良き高高を復活させております。これは決して回顧主義ではありません。伝統が更に栄えるよう皆様のご支援お願い致します。

80期 笹口 修男

志学ははるか遠くとなり、あつという間に而立、不惑、知命も過ぎ、耳順にもう少しで手が届きそうな年齢になってしまいました。たまには一緒に語り合いませんか?

81期 岩井 均

同窓会新年総会及び今年の同窓会ゴルフ大会では、幹事期として準備や設営にご協力頂き、ありがとうございました。これで同窓会行事の幹事は終わりましたので、今後は同期会と同窓会を大いに楽しみましょう。

83期 小此木正信

私たち第83期当番期の第112回同窓会では大変お世話になりました。あれから5年が経過しようとしております。明後年の2020年には、同窓会ゴルフ大会の当番期を務めさせていただきます。ご協力お願いします。

84期 細川 泰彦

別記事にもありますが、今年度の同窓会新年総会は来る1月26日です。これにあわせ例年通り84期の同窓会を開催します。3年後の同窓会ゴルフ大会当番幹事期を盛り上げるべく、多くのご参集をお願いします。

86期 佐藤 雄一

86期の皆さん、115回新年会総会での幹事ご苦労様でした。皆さんと会う機会が少なくなり寂しいです。定期的に同期会やゴルフコンペなどの連絡をさせていただきますので、ぜひ近況報告がてら参加お願いします。

(産科婦人科館出張佐藤病院 u-1@)

87期 静 和彦

87期代表の静です。今年の新年総会では多くのご指導、ご協力ありがとうございました。これからも87期の親睦を一層深めるため、気楽に集まれる機会を定期的に設けていきますので、宜しくご参加の程お願いします。

88期 亀田 慎也

末広がりのめでたい期、第88期。平成最後となる新年総会に向け、同期一同滞りない運営と趣向を凝らした企画で、皆様のお越しを心よりお待ちしております。会えば懐かしい同期の集いに、たくさんお声かけください。

89期 井上 幸己

2020年は私たち89期が当番幹事です。皆で力をあわせて乗り切るためにも、まずは新年総会後の二次会で!ご連絡お待ちしております!

koki_inoue@

90期 清水 敬浩

天田
石橋

平成33年1月開催の幹事期近し。第90期(平成3年3月卒業)の有志を募る。事務局または幹事まで連絡乞う。以上

91期 市川 英久

昨年の11月4日に91期同窓会を行いました。高崎在住者を中心に声をかけ、50名ほど集まり、旧友との楽しいひと時を過しました。2022年の新年総会は我々が幹事となります。また、集まりましょう。

94期 広瀬 一成

94期では、Facebookを使って、同期間でのやりとりを行っています。同窓会当日の二次会企画を含め、交流を深めていますので、ぜひ参加して下さい。

"県立高崎高等学校94期生"で検索!

99期 乾 恵輔

循環器内科の医師として卒業以来、基本的には東京で勤務していましたが、今年の4月から高崎に戻り、実家のクリニックを手伝っています。最近の趣味はランニングで高校の前を走ることもあります。

通信制 山本 好

通信制同窓会は、年に通常総会と併せて懇親会を開催しています。10月の球技大会に激励と5月の初夏のハイキングに参加をして在校生に親しまれる同窓会になるよう努力しているところです。

私の仕事

69期



人生という旅路 それは、旅の出会いから

群馬セラミックス株式会社
JAMOTORABERUグループ

取締役会長
統括責任者

小貫 諭



群馬セラミックス株式会社は創業33年を迎え、今年4月、息子に継承しました。現在は、モンゴルのJAMOTORABERUグループ統括責任者として、事業拡大に取り組んでいます。すべてが、『高崎高校での気づき』から始まりました。

高崎高校での気づき <1967~1970>

高崎高校を卒業して50年近くたち、今までの自分を振り返ってみました。

私の仕事の原点は、元をたどると、旅から始まっています。旅そのものが人生であり、そのいろいろな関りから今につながっています。

群馬セラミックス株式会社の設立から継承、モンゴルへの関り、なぜこのようなことができたのか？高崎高校入学当時は、日米安保闘争を頂点に学生たちは反体制運動に奮起し、日本中にエネルギーを拡散していた時代でした。同級生の中でもその様な社会情勢について議論を戦わせ、意気揚々と哲学論議をしていたのを思い出します。そんな中で自分はというと、見かけ行動は粗野雑駄であったのにもかかわらず、頭の中の思考はまったくの幼子であり、そのことを悟られまいと虚勢を張っていたのです。いつの間にか、同級生T君に完全に論破されたのです。その時ようやく気付き、人生はいかに生きるべきか、これをきっかけに人生についての考えを変えることになったのです。その日を今でも鮮明に覚えており、1967年12月12日で、その日こそ私の旅の始まりであり、自らの『革命記念日』あります。

放浪の旅から日本を知った <1970~1977>

卒業し大学に入り、ラグビーと学生運動、バイトが日常化し、反権力闘争の無力感の中で徐々に嫌気がさし、放浪の旅に出ることになりました。横浜から船でナホトカへ向かい、シベリアからモスクワ、そしてウイーンまで行き、ヒッチハイクで放浪の旅へ。スペインが好きになり、マドリッドで半年ほど過ごしました。アフリカから中近東経由でカルカッタへ。空路バンコクへ行く途中飛行機トラブルに遭遇し、空路による旅を断念しました。

帰国後、隣の研究室のU君に奈良に誘われ、奈良に感動。同行した友人の勧めで岡山に行き、備前焼に魅せられたのです。大学院に入り、研究の傍ら研究設備を利用しての作陶が始まりました。この時期は日常的に研究室に閉じこもり、実験三昧。特に、AlN、MgO-Al₂O₃の研究の傍ら、作陶。

サラリーマン時代 <1977~1984>

陶芸と両立した生活を進めるために、地元のY社に入社。高強度コンクリートの開発、新しい構造設計計算システム開発等かなり自由に研究をさせていただき、それなりの成果を上げることができました。また、その当時の首脳陣と業者との癒着問題を解消した結果、大き

なコストダウンを実行。しかし、いくら自由な立場で研究ができるでも本来のビジョンと違う方向に行きそうになり、方向修正しようと考えました。人に使われる立場では、なかなか二足の草鞋は履けない。また、資格で飯を食うことを模索するも、資格だけでは両立は難しい。陶芸を仕事にしてしまったら、また同じになってしまいます。ここは起業し、時間を稼ぐしかない。そこで、当時の部下3名と総務のI氏と顧問のK氏に話を持ちかけたところ、『やろうぜ』と意気投合したのです。起業3年前のことでした。

共に、現状に満足せず野心家であった我々の目は、きっとギラギラとしていたでしょう。専門家(私)がいるということから、セラミックスの加工にしようと決定しました。当時、シンガポールに本拠地を置くT社がセラミックスの分野を切り開きたいとの情報を得て、交渉を進めた結果、我々の要求のすべて受入れ、修業が許可されたのです。6年間務めたY社を退職し、その翌日には、T社のある川口で修業が始まりました。

修業時代 <1984~1986>

川口のメンバーは、我々4人と、セラミックス加工の大手から引き抜かれてきた加工専門技術者6人と、シンガポール本社から出向してきた人たちで、そこでの共同生活が始まりました。我々は、夜の時間帯に昼の作業の復習、理論体系の確立などを徹底的に習得しました。技術鍛錬というと聞こえが良いが、実のところ、技術を徹底的に盗みまくったのです。当時、世の中は好景気で、大手製造業の多数はセラミックスの分野に参入を図って、虎視眈々としていたのです。

3か月経過したころ、T社の状況があまりよくなさそうで、資材手配も滞ってきて、我々は『この会社はもうだめか』と感じ始めました。私は、部下もつれてきてしまったし、これで終わるわけにゆかない、と危機感を持ち、この会社の売り込み先を物色し始めました。他人の会社を売り込もうとするわけですから、なかなか困難を極めました。そうこうしているうちに、大手セメントS社が大きな関心を示しました。もちろん売却価格も了承し、T社に持ち込んだところ、簡単にあっけなく売却することに決まり、我々の要求もすべて受け入れられ、円満に譲渡が履行されたのです。これがなければ、群馬セラミックスの誕生はなかったのです。

裏話ですが、この時我々の遭遇は、ずうずうしくも一戸建ての社宅と、年3回の賞与、1年半後には独立することを了承していただきました。家族も呼び、これで安心して修業に励むことができました。この頃我々は、24時間交代で技術習得に励み、同時に、新会社の売り上げにも大きく貢献しました。いよいよ独立する時期になり、準備を始めましたが、どうしても残ってやってくれないか、と会社側から強く申し入れがありました。大きな好条件を提示され少し迷いましたが、初志貫徹するために、部下3人を引き連れ、退社を決行したのです。

群馬セラミックスの誕生 <1986~>

なぜこの年に群馬に戻ったかというと、息子の小学校入学に合わせたのです。会社設立するにあたって自己資金も限られていて、株主を募るしかない。株主を募ったら賛同者が予定数を超える、少なくとも自分の出資額を過半数でなくとも20%程度は持ちたいということを了承してもらい、設立しました。

スタート当初、商社経由で受注し加工品を供給することに徹しましたが、なかなか経営できるほどの受注がなく、また、商社が群馬セラミックスを子会社のような扱いをしてきたので、これでは自分の会社で仕事をすることにならないと感じ、創業3か月で商社経由での受注はすべてキャンセルし、自ら営業活動を始めました。今まで営業活動経験はなかったのですが、修業時代、顧客との技術打ち合わせは日常行っていて、業界でのマーケット・技術・情報等は、かなり豊富であると自負し、それなりの人脈もでき、まったく不安に感じませんでした。技術的なコンサルタント営業ができ、非常に小回りの利く便利なセラミックス加工会社になって行きました。生産工程の合理化提案をし、できるだけセラミックスを使用して、耐久・耐熱・非磁性の長所を生かし、顧客の工程合理化を推進し、顧客の信用を勝ち取ってきました。またこの時代は、何もかもセラミックスと言われるほど、コマーシャリズムにのり、どんどん受注が増えていきました。より安定化を図ることで自動車部品の分野に入り込み、焼結金属の加工まで行うようになりました。これが失敗でした。安定受注すればするほど設備投資が追い付かなくなり、コストダウン要求が日常的になり、まるで群馬セラミックスの創業期の商社経由での受注と同じように、自由度が薄くなっています。このため、自分の目的である時間を全く取れなくなりました。また、化石燃料を使用する自動車の将来性にも不安があり、撤退の方向へもっていかざるをえませんでした。

起業して7年目、自分を振り返ってみて、創業した目的にあまりにも合致せず、かつ、世の中が少しずつ変わり始めてきた気配を感じ始めました。モバイル端末が主流のコミュニケーションツールになるのではないか？丁度ナビゲーションシステムが出始め、この中にいろいろな機能が入ってくる世界が来ることを考えました。そのためにはおそらく、メモリーとバッテリーの小型大容量化の時代がやってくると感じました。メインの部分は簡単だし、大資本がおそらく参入し、我々のマーケットではない。我々のマーケットは例えば、絶縁部分とか理論的に成り立たない加工部分等であり、そこを発見するには顧客の愚痴を聞き、そこから発せられる言葉から、やりたくない、まあできないから儲からない、そんな仕事に特化してやっていったのです。そこでとうとうたどり着いたのは、顧客が使用する材料を使えるようにする事がありました。その中で、ある主要メモリーに使用される絶縁材料の世界トップシェアを持つまでに成長しました。創業時に小学校へ入学した息子が、とうとう今年社長になり、無事継承することができました。



本社・藤岡第2工場



吉井工場



ゴビ砂漠・ドリームゴビロッジ



テレルジ国立公園・ドリームテレルジ

モンゴルへ <1993~>

群馬セラミックスを起業して7年目に、続けていたラグビーの世界大会に参加せよとの依頼があり、もちろんオールディーズの大会ですが、なんとアイルランドのダブリンで行うとのことでした。放浪の旅の最後に、二度と飛行機には乗らないと誓った空路の旅をするのかと悩みましたが、結局、船と電車で行けるぞと決心しました。1993年神戸から出向し上海へ、北京経由でマンジョーリからシベリア鉄道に乗りモスクワ、ブレスト、ワルシャワ、ベルリン、オステンドからドーバーへ、ロンドン経由でホリーヘッドからダブリンへ。ゲームが終わりモスクワまで来たところで、エリツインと議会派のドンパチ戦争に巻き込まれ、モンゴル経由で帰国しました。この時ウランバートルはまだまだロシア色が強くモノ不足で、ガソリンさえもなかなか手に入らない状態でした。そのウランバートルで、私も当時知らなかつたウインドウズを使い、巧みにシステムを動かしたモンゴル人の物理学者に会いました。ここでピンと来ました。この国には物がないけれども、優秀な人材がいる。ここでのインプットが、モンゴルでの起業につながったのです。

その後、群馬県がアジアの農業研修留学生の受け入れを行ないました。モンゴルの留学生をホームステイさせてくれないかとの依頼があり、受け入れることにしました。この留学生は、高校生であるにもかかわらず15歳だったのです。なんと飛び級で高校に入ったとか。この時のカウンセラーが、当時群馬大学の大学院生であったモンゴル人のB氏でした。このB氏の奥さんの家系は実業家が多く、群馬セラミックスの社員旅行をモンゴルに決めた時には、いろいろ案内してくれたのです。

ウランバートルにザイサントルゴイという戦勝記念碑のある丘があるのですが、そこに案内され、従業員たちは皆頂上まで登りました。私とB氏の義理の弟Z氏は上に行かず、途中の踊り場でいろいろな雑談をしていた時意気投合し、何かモンゴルでやろうと誓いを立てたのです。今ではこの時のことを『ザイサンの誓い』と呼び、モンゴルのビジネスのすべてはここから始まったのです。2006年、モンゴル経済の基本は観光産業であるという話から、旅行代理業をやろうと意見が一致し、JAMOTORABERUを起業したのです。

(JAはJAPAN、MOはMONGOLIA、TORABERUはトラベルのローマ字でモンゴル商業登記。) そうこうするうちに、旅行代理業だけでは面白くないので、ロッジも造ろうということになり、2008年に、Z氏の故郷である南GOBIに100人収容できるロッジを造ってしまったのです。このロッジは、利益が出るまで6年くらいかかり、ようやく何とかなりそうになり、今度は2015・16年とテレルジ、フフスグルに新たなロッジを竣工しました。いつの間にかJAMOTORABERUグループという呼び名になり、関連会社7社従業員数も100名を超える企業に成長しています。

食肉の分野や鉱山など多岐にわたって拡大し、もうこちらもそろそろ卒業かなと考えています。海外を旅して多くの異文化に触れ、国籍を問わずたくさんの人々と交流し、時には笑って時には涙して、感動を分かち合ってきました。モンゴルのビジネスも、旅の途中での出会いが発端です。人種や年齢に関係なく、心から信頼できる絆を作ることは、たやすいことでは無いでしょう。心のドアを開けることで見えてくる、触れる世界が変わってくると確信しています。

若かりし時、人生について悶々と悩み、多くの読書と友人との議論を経て見出した…人生は自分の好きなように生きる…との結論。夢と期待を胸に秘めて、これからも、確実に一歩を進めて行きたいと思っています。



フフスグル湖・ドリームフフスグル



左からZ氏、自分、息子

◆◆ 公益財団法人「翠巒育英会」◆◆

PR

平成29年度事業報告書

平成29年 4月15日	第1回 理事会 【事業報告、決算報告、事業計画、予算計画等】学校教育補助事業にかかる審査会 第1回 評議員会 【事業報告、決算報告、事業計画、予算計画等】学校教育補助事業にかかる審査会
5月16日	第1期分奨学金交付(3年5名、2年生5名分)
7月 6日	平成29年度奨学生採用選考会(申請者14名)
7月11日	奨学生採用通知書伝達式(1年4名)
7月11日	第1期分奨学金交付(平成29年度採用4名分)
9月21日	第2期分奨学金交付(14名)
11月 7日	群馬県学事法制課立入検査
12月19日	第3期分奨学金交付(13名・1名交付取消)
平成30年 1月27日	感謝状贈呈(ホワイトイン高崎) 個人7名、団体2(内訳は別掲)
3月22日	第2回 理事会 【平成30年度事業計画・予算案・資金調達・設備投資・理事候補者の推薦について】 第2回 評議員会 【平成29年度事業経過・予算の推移について】

《お願い》

平素より翠巒育英会にご理解ご協力をいただきおり深くお礼を申し上げます。

現今の経済状況を鑑みれば奨学金を希望する生徒が増加する傾向が予測されます。同窓生諸兄にはこうした事情をご理解の上、本育英会に浄財をお寄せ下さい。是非とも後輩達の修学を後押しして下されば幸いです。今後益々のご協力をよろしくお願い致します。

「公益財団法人翠巒育英会」 理事長 串田 紀之

平成29年度「公益財団法人 翠巒育英会」決算書

			(単位・円)
■収入			
正味財産(基金)運用益			4,655
寄付金			2,859,900
雑収入			12
合計			2,864,567
■支出			
事務費 奨学金			1,640,000
学校教育補助			145,000
教育環境整備補助			221,400
委託料			300,000
通信運搬費			96,030
支払手数料			74,327
雑費			49,655
管理費 消耗品費			335
支払手数料			1,100
雑費			13,592
合計			2,541,439
2,864,567 - 2,541,439 = 323,128 (正味財産へ増額)			
■正味財産 (基金)			
*当期首残高			51,613,172
*当期首残高増減額			323,128
*当期末残高			51,936,300

(注)上記決算書は当法人の決算書の様式と異なりますが、皆様にわかりやすくするために一般的な収支報告書の様式で表示しました。

※15年度以前は前号にて掲載いたしました。

寄付者名簿

敬称略(単位:円)

NO.	年度	卒期	寄付者名	金額
125	16		元校長 小林 克茂	100,000
126	16		元教頭 富所 三郎	100,000
127	16	73	同窓会総会幹事73期	346,250
128	16		群大医学部翠巒同窓会	40,310
129	16	67	同窓会ゴルフ大会幹事67期	50,000
130	16	78	高橋 浩生	20,000
131	16	45	安藤 直典	100,000
132	16	50	横田 英一	100,000
133	16		S·S	100,000
134	16	52	岡村 晶夫	100,000
135	16	62	山本 忠順	100,000
136	16	74	同窓会総会幹事74期	450,000
137	17	42	内山 信次	500,000
138	17	74	秋山 賢治	200,000

NO.	年度	卒期	寄付者名	金額
139	17	68	梅澤 寛	50,000
140	17	75	嶋田 厚	50,000
141	17	72	山口 潤一	100,000
142	17		S·S	100,000
143	17	50	市川 克美	100,000
144	17	50	元校長 金井 秀一	30,000
145	17	56	原 浩一郎	200,000
146	17	59	大木 康行	30,000
147	18	75	75期代表幹事 橋爪良真	300,000
148	18	75	同窓会総会幹事75期	453,000
149	18	69	同窓会ゴルフ大会幹事69期	100,000
150	18	78	吉本 明弘	20,000
151	18		元校長 栗原 健	100,000
152	18	81	林 正和	50,000

NO.	年度	卒期	寄付者名	金額
153	18	52	柴田 直彦	100,000
154	18	76	同窓会総会幹事76期	300,000
155	19	70	同窓会ゴルフ大会幹事70期	50,000
156	19		高崎高校同窓会	478,000
157	19	80	笛口 修男	100,000
158	19		創立110周年記念事業実行委員会	373,094
159	19	54	剣持 昭義	200,000
160	19	54	小泉 信	100,000
161	19	74	國峯 賢一	120,000
162	19	73	黛 憲二	10,000
163	19	43	松倉 重昭	50,000
164	19	50	入澤 哲夫	100,000
165	20	77	同窓会総会幹事77期	300,000
166	20	49	高橋 哲夫	100,000
167	20	71	同窓会ゴルフ大会幹事71期	50,000
168	20		高崎高校同窓会	460,000
169	20	52	中島 徳雄	100,000
170	20	54	町田 宗宏	100,000
171	20	50	横田 英一	100,000
172	20	47	松沢 瞳	100,000
173	20	46	宮下初太郎	10,000
174	20	77	匿名	3,031
175	20	78	同窓会総会幹事78期	301,853
176	21	58	58期同期会卒業50周年記念 代表 山口正敏	100,000
177	21	38	重田 精一	1,000,000
178	21	72	同窓会ゴルフ大会幹事72期	100,000
179	21	78	高橋 浩生	30,000
180	21	54	剣持 昭義	200,000
181	21	54	上原 博男	100,000
182	21	52	山岸 俊文	20,000
183	21	50	金子 保	10,000
184	22	79	同窓会総会幹事79期	252,175
185	22	73	同窓会ゴルフ大会幹事73期	50,000
186	22	56	真下 昇	50,000
187	22	45	伊藤 秀男	30,000
188	22	62	森山 昭治	100,000
189	22	57	石井 清一	100,000
190	22	52	菊地 俊二	50,000
191	22	55	森 貴信	50,000
192	22	68	元校長 藤倉 新一	100,000
193	22	60	有田 喜一	50,000
194	22	80	同窓会総会幹事80期	306,448
195	22	52	田口佐知雄	100,000
196	23		松浦幸雄後援会 國峯善次郎	50,000
197	23	74	同窓会ゴルフ大会幹事74期	120,000
198	23	58	大木 紀元	100,000
199	23	87	佐々木哲朗	720,000
200	23	59	植原伊佐美	100,000
201	23	62	小林 輝男	100,000
202	23	81	同窓会総会幹事81期	253,710

NO.	年度	卒期	寄付者名	金額
203	24	75	同窓会ゴルフ大会幹事75期	125,000
204	24	56	贊田 裕行	100,000
205	24	82	同窓会総会幹事82期	302,492
206	24	51	柴山勝太郎	100,000
207	25	76	同窓会ゴルフ大会幹事76期	120,500
208	25		高崎高校バレー部 総体出場会計	50,000
209	25		匿名	14,129
210	25	61	友松 敬三	100,000
211	25	56	原 浩一郎	100,000
212	25	54	牧元 弘之	50,000
213	25		元校長 羽鳥 進一	100,000
214	25	81	波瀬 憲昭	10,000
215	25	49	太田 悅郎	100,000
216	25	83	同窓会総会幹事83期	303,842
217	25	61	舛岡富士雄	20,000
218	26	81	波瀬 憲昭	100,000
219	26	77	同窓会ゴルフ大会幹事77期	115,500
220	26	74	秋山 賢治	100,000
221	26	65	清水 敏	50,000
222	26		バレー部OB会	50,000
223	26	61	高木 賢	100,000
224	26		匿名	1,000,000
225	26	84	同窓会総会幹事84期	304,893
226	27	81	波瀬 憲昭	100,000
227	27	78	同窓会ゴルフ大会幹事78期	70,000
228	27	57	佐藤 和徳	100,000
229	27	63	63期有志代表羽鳥修司	100,000
230	27	51	國峯善次郎	100,000
231	27	78	中里 龍生	50,000
232	27		元校長 佐藤 功	100,000
233	27	57	山岸 俊之	100,000
234	27	56	櫻井 弘	100,000
235	27	85	同窓会総会幹事85期	300,169
236	28	79	同窓会ゴルフ大会幹事79期	80,000
237	28	69	匿名	50,000
238	28	54	田端 稔	100,000
239	28	58	増村 邦夫	300,000
240	28	56	立見 壽士	100,000
241	28	54	間仁田恭一	100,000
242	28	86	同窓会総会幹事86期	300,000
243	29	73	重田 誠	100,000
244	29	80	同窓会ゴルフ大会幹事80期	80,000
245	29	57	竹内 功	100,000
246	29	69	阿久澤 茂	100,000
247	29	61	小林 輝男	100,000
248	29	72	下村 博文	83,030
249	29	58	月岡 閑夫	100,000
250	29	57	小池 倭夫	100,000
251	29	87	同窓会総会幹事87期	300,870
252	29	81	同窓会ゴルフ大会幹事81期	80,000

※30年度以降は次回にて掲載いたします。

母校だより

第66回 翠巒祭 テーマ:Super Crew

第66回翠巒祭にご来場・ご協力していただいた皆さんに心から感謝しています。ありがとうございました。「Super Crew」のテーマのもと、高高生が活躍できる場も増え、校内展示のクオリティーも昨年以上のものとなり、お客様一人一人の満足度も高いものであったと思います。来場者数も17,556人と過去最高となり、今までの翠巒祭と比べても十分に盛り上がることが出来ました。



自分たちのベストの翠巒祭にでき、第66回翠巒祭実行委員長を務められたことは本当に光栄です。

第66回翠巒祭実行委員長 3年 須川 翔太

第72回 定期戦 雨中の定期戦、3連勝成る!

正々堂々やれてよかったです。前橋が予想以上に強く、自分はビビってしまった。



高崎が負ける姿を見たくないと思った。しかし、今日は特に高高生はすごいと再確認した。自分は競技に出ていないが、みんなが頑張って勝利に導いてくれた。勉強もできて運動もできる。やはり高高は群馬県一の高校だ。

しかし、課題もある。まず練習では量はあったが質が低かった。そして野次では、ただの悪口でしかないものがあった。これらの反省を活かし、連勝を続けてほしい。

定期戦実行委員長 3年 塩月 雅史

第72回定期戦得点表

部対抗		種 目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		水 泳	6	3
		駅 伝	4.5	4.5
		綱引き	6	3
		玉入れ	6	3
		ソフトボール	9	0
		長縄跳び	0	6
0	6	卓 球	3	6
6	0	陸上競技	実施せず	
6	0	ソフトテニス	0	9
6	0	バレーボール	3	6
0	6	バスケットボール	5	4
0	0	空手道		
6	0	柔 道		
0	6	剣 道		
6	0	弓 道		
0	6	サッカー		
6	0	ラグビー		
6	0	硬式野球		
6	0	バドミントン		
0	6	テニス		
0	6	小 計		
48	36		42.5	44.5

総合計 高高 90.5 前高 80.5

★これまでの戦績は高高41勝、前高24勝、引き分け3です。

卒業生合格者数(全日制) ()内は現役

大学 年次	30年	29年	28年	大学 年次	30年	29年	28年	大学 年次	30年	29年	28年
北海道大	9(8)	10(6)	11(4)	金沢大	10(9)	10(10)	15(13)	中央大	37(28)	43(38)	76(52)
東北大	26(18)	30(21)	29(19)	信州大	2(2)	3(3)	9(6)	明治大	52(42)	54(36)	67(40)
筑波大	5(5)	9(8)	5(4)	名古屋大	3(3)	4(4)	2(2)	上智大	9(7)	13(4)	8(7)
千葉大	8(8)	3(2)	7(7)	京都大	3(3)	2(1)	5(2)	立教大	15(13)	12(11)	22(13)
群馬大	31(26)	34(31)	39(30)	高崎経済大	18(16)	17(17)	15(15)	青山学院大	13(12)	10(7)	30(24)
埼玉大	8(7)	8(5)	5(4)	首都大東京	3(3)	5(0)	2(0)	法政大	34(27)	53(37)	56(42)
東京大	8(7)	8(3)	13(8)	国公立大 医学部医学科	13(10)	15(11)	16(9)	日本大	39(32)	74(55)	58(44)
一橋大	1(1)	1(0)	0(0)					東京理科大	77(56)	93(60)	117(87)
東京工業大	1(0)	2(1)	2(2)					芝浦工業大	56(40)	76(64)	76(58)
東京外国語大	2(2)	5(4)	3(1)					明治学院大	8(7)	6(6)	10(4)
横浜国立大	3(2)	2(1)	6(6)	慶應大	20(12)	23(13)	35(23)	同志社大	2(1)	3(1)	4(4)
新潟大	12(10)	21(19)	17(10)	早稲田大	38(28)	36(28)	54(29)	立命館大	10(7)	10(6)	12(8)

「先輩、教えてください!」事業報告

在校生が県内同窓生の皆さんとの職場にうかがい、職業に関する体験をさせてもらう進路学習新規事業が9月4日(火)に実施されました。受け入れてくださった同窓生の方々に、厚く御礼を申し上げます。

この事業は、在校生が講義や見学・実習を体験することで進路意識を高め、彼らが将来社会貢献できる人材となることを促す企画です。台風の影響で受け入れ中止になった事業所があったものの、本校2年生約300名が35班に分かれ、36箇所の職場を訪問しました。受け入れてくださった同窓生の所感をご紹介します。



弁護士法人龍馬 おこのぎ法律事務所
弁護士 小此木 清(72期)

この度、4名の生徒さんに当法律事務所及び裁判所の見学をしていただきました。弁護士の業務についてはもとより、高校時代の勉強法等にも話が及び、当方も高校時代に思いを馳せ、初心に立ち返った一日でした。

昨今、法曹界を志す若者が減少しているとの報道があります。今回の参加者も法学部志望者は4名中1名と聞き、寂しさを感じませんが、現場の雰囲気に触れ、視野を広げ、関心を高めていただく契機となればと願っております。



『マックス(株)玉村工場見学によせて』

マックス(株)専務取締役 生産本部長
樋口 浩一(75期)

この度は、当社玉村工場の見学においていただき、ありがとうございました。

短い時間でしたが、当社製品が市場に出ていくまでの考え方、プロセスを説明させていただき、生徒は興味津々で見聞きしているようでした。中でも当社製品を実際に使用・体感するコーナーでは、大工が使用する釘打機、鉄筋結束機などを実体験し、生徒の方から当社の若手技術系社員にいろいろ質問をしていたのが印象的でした。今後も機会を作り、後輩達に「ものづくり」の魅力を伝えられたらと思っています。



『頼もしき若武者6名』

眼科医・小林眼科院長
小林 和夫(79期)

西日本に大きな被害をもたらした台風21号が関東に近づいた9月4日、高崎高校2年生6名(理系3名、文系3名)が「先輩、教えてください!」の課外授業で来院してくれました。白内障手術をライブで見学し、術後にはオペ室で顕微鏡や手術装置に触れながら、笑顔を交えて質疑応答ができました。素直な表情で話す姿に好感を持つとともに、自らの高校時代がふっと頭をかすめました。今回の企画を通じて、働く意義について想いを寄せ、それぞれが希望の進路を見つける手助けになれば幸いです。本企画の継続を望みます!

活躍部活紹介

運動部

【陸上競技部】平成30年度全国高校総合体育大会 走高跳 第5位 大平 海史
第73回国民体育大会(福井)走高跳出場 大平 海史

JOCジュニアオリンピックカップ第12回U18日本陸上競技選手権大会 男子走高跳 第4位 大平 海史

【水泳部】平成30年度全国高校総合体育大会 100m・200m背泳ぎ 第3位・第6位 三浦 玲央

【弓道部】平成30年度全国高校総合体育大会 決勝射詰敗退 大森 翔貴

【スケート部】第73回国民体育大会 冬季大会 ショートトラック競技 少年男子 出場 丸山 凜太郎

学芸部

【物理部】第14回全国物理コンテスト物理チャレンジ2018 出場 尾形 穂、竹島 優太

【マンドリン部】全国ギター・マンドリン音楽コンクール 出場

【放送メディア研究部】第42回全国高校総合文化祭 出場

【新聞部】第22回全国高校新聞年間紙面審査賞 優良賞

第42回全国高校総合文化祭 出場

【将棋部】第42回全国高校総合文化祭 個人戦 出場 神宮 圭汰

【鉄道研究部】第10回全国高等学校鉄道模型コンテスト モジュール部門ベストクリティ賞

創立記念講演会

テーマ

「パラダイムシフトの時代
～地球規模の課題に
どう取り組むか～」



元青山学院大学学長
東京同窓会会长
仙場 憲一 氏(68期)

平成30年6月14日(木)13:30より、本校体育館にて全校生徒を対象に創立記念講演会が開催された。

同窓生の仙場氏は現在の世界情勢をふまえ、「石頭ではダメ地頭を鍛えろ!」と述べ、「他人の発言をよく聴いた上で自分で考え、自分の言葉で表現し相手を納得させる論理力」「データ分析力・数量分析力」「広い世界の問題は身近な問題でもあるというグローバルな視点」を養成してほしいと力説なさった。

キャリア教育講演会

テーマ

「"未来"を創るために
"今"を魅せる～明日の日本を
創る魅力～」



総務省統計局
統計調査部経済統計課
最上 桂 氏(103期)

平成30年10月29日(月)14:30より、本校体育館にて全校生徒を対象にキャリア教育講演会が開催された。

同窓生の最上氏は、「少子高齢化社会を日本がどう乗り切るかを世界は注視しているが、国(行政)ができる範囲は限られている」と述べ、「高高生たれ」をまとめの言葉とし、「前例を単に踏襲するのではなく、目の前の社会状況を根本から見直し、自分たちがいかに社会貢献できるかを考え実践することを高高生に求めたい」と力説なさった。

同窓会だより

第117回 高中・高高同窓会新年総会・懇親会
皆様をこころよりお待ちしております。



88期代表幹事 亀田 慎也

卒業から30年。幹事期を迎えて、同期生に連絡を取りました。8月に第一回の実行委員会を開催し、集まった50名あまり。いささか緊張気味に受付で名前を告げ、所在なくクラスごとのテーブルに着く。30年前とは風体の変わった同期。しかし、どことなく見覚えのある顔。恐る恐る名刺交換をする。「あっ!○○ちゃん!」乾杯を終え、アルコールが入る頃には、30年前の空気が一気になだれ込んできた。「いや、こんなに楽しいとは思わなかつた。」

「声をかけてくれてありがとう!」そんな言葉を耳にし、この新年総会幹事期を務める意味をあらためて感じさせられました。

『第117回高中・高高新年総会・懇親会』を担当する第88期の亀田です。こうして同期が集まる機会を与えていただき、心より感謝申し上げます。それぞれの期の皆さんに、心おきなく、そして楽しく旧友を温めあう場を、しっかりと設営してまいります。どうぞ、多くの方にお声掛けをいただき、ご参加いただけることを心よりお待ちしております。

第117回 高中・高高同窓会新年総会のご案内

同窓会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

諸先輩方、後輩諸氏多くの同窓の皆様方をお迎えし、総会では本会および母校の状況をご確認いただき、懇親会では在学当時を思い起して共に楽しいひとときをお過ごしいただける様、準備を進めております。

同級生、先輩後輩皆々様お誘いの上、一人でも多くの同窓の皆様がご参加下さいます事、当番幹事一同心よりお待ち申し上げます。

【日時】平成31年1月26日(土)午後3時より

【会場】ホワイトイン高崎(高崎市赤坂町94 電話:027-325-5858)

【会費】お一人様 5,000円(当番幹事 88期代表 亀田 慎也)

第25回高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

●団体戦(各期上位4名のトータルスコア)
《グロスの部》

順位	期	GROSS
優勝	85期	322
準優勝	76期	338
3位	82期	338

■ 開催日 2018年5月27日(日)
■ 開催場所 サンコー72カントリークラブ
■ 参加人数 214名
■ 当番幹事期 81期

《ネットの部》

順位	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	79期	362	70.8	291.2
準優勝	82期	354	62.4	291.6
3位	85期	346	54.0	292.0

●個人戦 《ベストグロス賞》

順位	氏名	期	GROSS
赤城・榛名	橋爪 洋介	85期	72
榛名・妙義	宮本 泰明	82期	74
妙義・赤城	宮崎 亨	75期	78

《ネットの部》

順位	氏名	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	遠山 昇	79期	91	21.6	69.4
準優勝	相田 淳	75期	96	25.2	70.8
3位	森 和博	74期	88	16.8	71.2



絶好のゴルフ日和のもとプレーがスタート



79期遠山さんに串田会長から
優勝カップの授与



参加者のチャリティーを
翠巒育英会に寄付



次回幹事となる82期のみなさん



校歌・応援歌翠巒の齊唱



当番期の任務を無事終了した81期

当日は天候にも恵まれ、皆様方のご協力により無事開催することができました。心から感謝申し上げます。

81期 ゴルフ代表幹事 田中 宏巳

平成30年度高崎高校人事異動

〈退任者・転出者〉

教頭	関口 博士	高崎女子高(副校長昇任)
理科	小久保博志	退職
英語	紋谷 清美	退職
国語	伊藤 信一	富岡高
国語	關根 秀仁	高崎北高
地歴	森田 達哉	伊勢崎興陽高
数学	一倉 行雄	前橋南高
数学	阿部 一輝	玉村高
英語	吉澤 正明	前橋西高
英語	滝沢 憲一	県立太田高
養護	黒田 美緒	高崎高等特別支援学校
事務(地公臨)	小林 雅美	藤岡工業高(司書)

〈新任者〉

国語	渡辺 彰	渋川高
国語	藤生 楊亮	県立太田高
地歴	井田 郁浩	中央中等教育学校
数学	徳光 尚之	富岡高定時制
数学	木村 拓哉	富岡高
英語	劍持 幸夫	沼田高
英語	一場 尚子	高経大附属高
養護	藤原 利彩	渋川女子高

通信制

〈退任者・転出者〉	地歴 浅海 紀子	松井田高
〈新任者〉	地歴 新井 益美	高崎東高



◆維持会費納入状況 - 同窓会員の責務・誇りの証 -

卒業者数38,233名、生存・住所登録者約21,000名余。これが群馬県立高崎高等学校同窓会の戦力である。維持会費納入者は10月末現在2,600名余り、実に12%強の有効戦力でしかないという状況です。維持会費納入につきましては多くの会員に周知されていない実態が判りました。同窓会の力は維持会費にあります。母校の発展を願い、後輩達の活躍支援の資金源となっております。同窓会報、翠巒体育会誌を同窓会員全員にお送りしておりますのも、情報をお知らせすると共にご支援を賜りたいからでもあります。各編集委員も同窓会員に同窓生や母校・生徒の活躍

情報を提供すべく真摯に編纂しております。無料で届く同窓会報は維持会費を納めて下さっています会員の支えで成り立っております。『同窓会会則第9条(2)維持会費は一口2,000円とし、一口以上納入するものとする』とあります。同窓会員は維持会費を納入する責務をお持ちです。同窓会員各位の誇りを実行され、校歌にある『伝統よ更に栄あれ』を望むところであります。納入方法につきましては、郵便局振込、コンビニ振込に続きホームページからのクレジットカード振込(12月～翌年4月30日限定)も加え、より納入しやすい工夫も行っております。是非ご利用しご支援を賜りたくお願い申し上げます。

(同窓会本部幹事長 立見 友孝・63期)

	《郵便局口座》	《クレジットカード振込先》
納入先	00110-9-17960 群馬県立高崎高等学校同窓会	同窓会ホームページよりクレジット決済フォームにて VISA、Masterカードのみ、12月～翌年4月30日限定

注)コンビニ振込は振込用紙に記載された金額のみのご利用となっております。

◆問合せ先 同窓会事務局:電話&FAX 027-320-6024 Eメール:suiran@email.plala.or.jp



1.指月庭のバラを年間維持管理する『指月庭俱楽部員』を募集しております

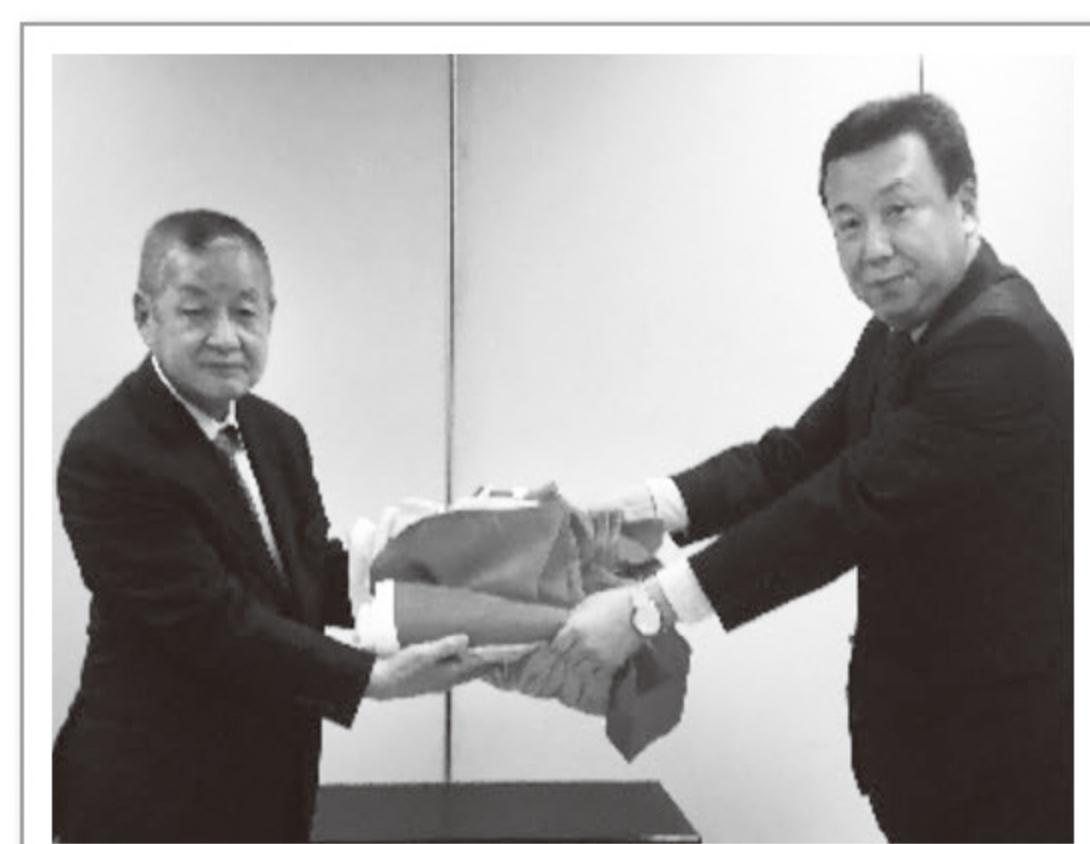
母校120周年事業として指月庭は140本の新品種バラにて鮮やかに復活しました。
現在10名にて活動。春～秋にかけて毎月第2・4日曜午前9時より手入れを行っています。
時間の取れる方は道具持参にて参加して頂きたいと思います。
詳しくは同窓会事務局 (TEL.027-320-6024) にお問い合わせください。

2.若い卒業期でまだ代表幹事、常任理事、理事等の役員未決定期に補助金

役員未決定、或いは同窓会未開催等で困っている期には初回案内通知にかかる費用(5万円前後)を同窓会にて支援致します。
対象期の有志は事務局 (TEL.027-320-6024) にご連絡ください。

3.企業の協賛会員も継続募集しております

ホームページでの企業PR及びリクルート活動に活かせます。
初回より年間1万円です。
事務局 (TEL.027-320-6024) 或いはホームページより申込み頂けます。



串田会長より加藤校長へ
紅白幕寄贈
(表紙写真にて活用状況ご覧下さい)



69期(代表幹事 阿久澤 茂氏)
より鯉のぼり寄贈



同窓会より
3F池浄水装置寄贈

◆各地区同窓会役員名簿及び連絡先◆

本部同窓会(会員約21,000名)

会長	串田 紀之	67期
副会長	阿久澤 茂	69期
〃	坂本 正樹	71期
〃	清水 正郎	75期
〃	波瀬 憲昭	81期
監査	仙波 憲一	68期
〃	松岡 光弘	77期
〃	小板橋 敬之	81期

役員はH31年新年総会にて交代予定です。
●連絡先 事務局:027-320-6024(FAX同)

東京同窓会(会員約3,600名)

会長	仙波 憲一	68期
副会長	御供 謙一	68期
幹事長	丸山 俊弘	71期
副幹事長	田中 誠	72期
事務局長	小池 淳司	72期
監事	下村 昇治	75期
〃	兵藤 公彦	72期
翠巒編集長	中村 健一	93期
	田端 広英	87期

●連絡先 下村:090-
例年10月第四金曜・総会・懇親会開催

関西同窓会

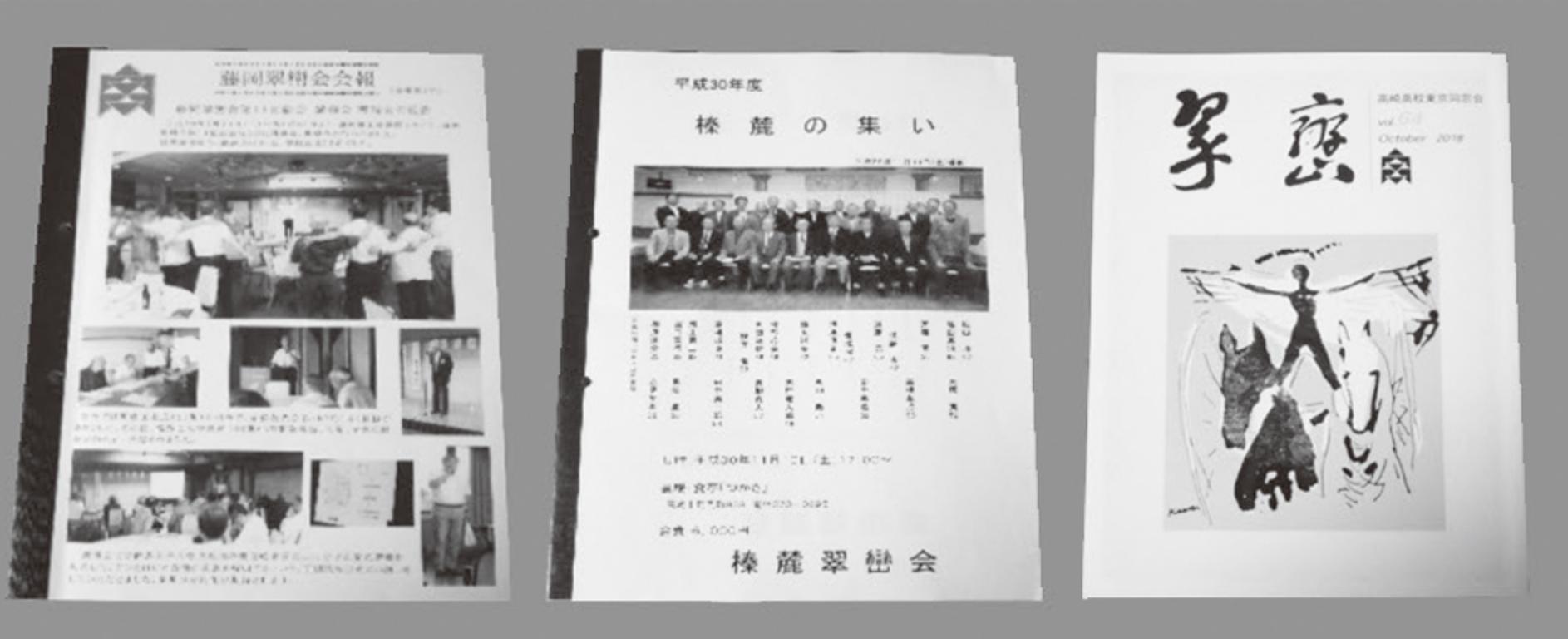
会長	宮崎 和典	67期
監査	糸田 博史	68期
事務方	"	

●連絡先 糸田:090-
例年10月第四金曜・総会・懇親会開催

藤岡翠巒会(藤岡市)(会員約160名)

会長	赤松 茂光	67期
副会長	小貫 諭	69期
〃	秋山 賢治	74期
会計記	福島 直人	66期
書記	関根 正史	69期

●連絡先 福島:090-
例年6月第三土曜総会・懇親会開催



各地、職域等での活動があれば事務局までご連絡ください。Email:suiran@email.plala.or.jp 同窓会本部事務局:027-320-6024 FAX 同

すいらん獣医師会(会員約30名)

会長	中島 英男	50期
幹事長	高橋 成東	71期

●連絡先 高橋:090-
例年10月第四金曜・総会・懇親会開催

群馬県庁 高朋会(会員約700名)

会長	塚越 昭一	76期
副会長	西村 透	77期
幹事長	女部田 正一	88期
副幹事長	上原 篤士	89期
主任幹事	笠原 宏一	88期
〃	鈴木 徹也	88期
〃	井上 太也	89期
〃	千葉 純也	89期

役員はH31年4月にて交代予定です。

●連絡先 児童福祉課 女部田:027-
例年10月第四金曜・総会・懇親会開催

高崎市役所 翠巒会(会員約270名)

《H30》会長	土谷 徹則	77期
副会長	佐藤 誠	76期
〃	吉井 仁	79期
会監	松本 伸	80期
〃	松田 隆克	80期
〃	富加津 豊	80期

●連絡先 福祉部長 吉井:
例年10月第四金曜・総会・懇親会開催

《H31》会長	吉井 仁	79期
副会長	星野 守	80期
〃	松田 隆克	80期
会監	松本 伸	80期
〃	富加津 豊	80期
	曾根 光広	81期

榛麓(しんろく)翠巒会(会員約120名)

(旧群馬町、箕郷町、榛名町、倉渕町、榛東村等)

会幹	田中興一郎	58期
幹事	立見 友孝	63期
〃	瀬山 真二	63期

●連絡先 立見:090-
例年11月第二土曜総会・集い開催

翠巒税理士会(会員約75名)

会長	永井 乙彦	69期
----	-------	-----

指月庭俱楽部(会員約10名)

会長	高橋 成東	71期
----	-------	-----

●連絡先 高橋:090-2318-0347
毎月第二・第四日曜9時より手入れ

平成30年 紋章・叙勲等受章者

(敬称略)

春の叙勲

旭日双光章 永井伊津夫(60期)
瑞宝小綬章 大木 隆明(58期)

秋の叙勲

瑞宝小綬章 安藤 義孝(59期)
瑞宝双光章 奥原 孝雄(66期)

大臣表彰

文部科学大臣表彰 戸田 優(61期)
国土交通大臣表彰 富永 伸樹(78期)



◆翠巒文庫について◆

翠巒文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈平成29年10月1日～平成30年9月30日〉

●著書／作者

- | | |
|-------------------------------|------------|
| ●碓氷の歌曲集 | 清水 正之(47期) |
| ●風鈴の音色 | 富所 隆治(53期) |
| ●季氏と孔子 逆境に天命を知る 専横な権力と戦い続ける孔子 | 秋本 稔(63期) |
| ●船舶汚染規制の国際法 | 富岡 仁(66期) |
| ●詩集 ブルーモーメント | 福田 誠(76期) |
| ●近代日本における功利と道義 福沢諭吉から石橋湛山まで | 松井慎一郎(85期) |
| ●エレミア書における罪責・復讐・赦免 | 田島 卓(102期) |

高崎高校 同窓会関連販売グッズ(送料費込み)

(郵送希望の場合は現金書留にて下記金額を事務局までお送り下さい)

〒370-0861 高崎市八千代町 2-4-1 高崎高校同窓会事務局宛 電話・FAX 027-320-6024



120周年記念誌+記念品+バッグ
(記念品:クリスタルペーパーウェイト)
2,000 円



高中・高高120周年記念ビデオ
(DVD) 1,000 円

高崎高校100年史
(通史編、人物編) 2,000 円



背広用襟章(母校校章) 1,000 円

別売品



野球帽
(甲子園出場西暦年入り)
3,500 円



学帽(2本線、校章付)
10,000 円

〒370-3107

群馬県高崎市下之城町584-70 高崎産業創造館 202
(株)群馬スポーツマネジメント 堀口芳明宛 FAX027-386-6083
(群馬ダイヤモンドペガサス社長 携帯 090-3245-0472)

110周年記念誌「翠巒」	1,000 円
100周年記念誌「翠巒」	1,000 円
高崎高校80年史(上・下)セット	1,000 円
校歌・応援歌CD	1,000 円
ネクタイピン(卒業記念品)	1,000 円
同窓会員名簿(H29年版)	4,300 円

*尚、在庫数により注文順、終了次第となります。ご了解願います。

◎2ページの先生のお名前…漢文S先生:鈴木 淳先生 化学N先生:永沢 恵一先生 体育T先生:角田 吉弘先生
生物T先生:田島 秀雄先生 国後Y先生:安居 次夫先生 一般社会S先生:篠原 皓先生

高高同窓会 予算決算報告

平成29年度 通常会計決算

(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

収入の部

費目	予算額	決算額	増△減	備考
前年度からの繰越金	652,302	652,302	0	前年度から繰越金
入会金	3,168,000	3,281,700	113,700	全員制323名(@9,900) 通信制42名(@2,000)
維持会費	10,000,000	9,954,200	△45,800	2,625名(120周年記念事業寄付金 1,000円×2,607人を含む)
利息	1,098	32	△1,066	ゆうちょ銀行・ 高崎信用金庫利息
雑収入	3,000,000	3,191,924	191,924	Webサイト協賛金・記念品収入・ 名簿収入・定期解約継入金ほか
合計	16,821,400	17,080,158	258,758	

支出の部

費目	予算額	決算額	残額	備考
会議費	1,200,000	1,275,160	△75,160	新年総会準備ほか
祝賀費	1,000,000	929,492	70,508	叙勲・卒業記念品ほか
餞別費	220,000	180,000	40,000	平成28年度末退職職員餞別
慶弔費	100,000	107,400	△7,400	供花
通信印刷費	600,000	539,579	60,421	維持会費督促状・納入札状・ 翠巒会館電話代ほか
旅費	120,000	140,000	△20,000	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	3,950,000	3,812,896	137,104	同窓会報発行費および発送費
事務費	1,400,000	1,411,175	△11,175	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	103,571	△3,571	賞状・記念品ほか
資料整理費	400,000	311,364	88,636	Webサイト管理費・ 各会報のデジタル化費用
補助費	2,600,000	1,430,000	1,170,000	翠巒体育会・生徒活動補助 部活動補助
環境整備費	400,000	315,303	84,697	指月庭およびバラ園の維持管理費
雑費	600,000	648,553	△48,553	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	4,000,000	5,000,000	△1,000,000	特別会計積立: 120周年記念事業寄付金
予備費	131,400	0	131,400	
合計	16,821,400	16,204,493	616,907	

$$\text{収入総額(円)} - \text{支出総額(円)} = \text{差引繰越残額(円)}$$

17,080,158 16,204,493 875,665

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	12,744,100円
	平成29年度通常会計より	2,393,000円
	120周年記念事業寄付金	2,607,000円
	事務局職員退職金積立	120,000円
	利息	851円
	合計	17,864,951円

支出の部	120周年記念事業	3,736,036円
	合計	3,736,036円

当年度差引残額 14,128,915円

平成30年度 通常会計予算

(平成30年1月1日～平成30年12月31日)

収入の部

費目	今年度予算	前年度予算	増△減	備考
前年度からの繰越金	875,665	652,302	223,363	前年度から繰越金
入会金	2,852,000	3,168,000	△316,000	全員制280名(@9,900) 通信制40名(@2,000)
維持会費	8,000,000	10,000,000	△2,000,000	
利息	0	1,098	0	
雑収入	300,335	3,000,000	△2,699,665	Webサイト協賛金・記念品収入・ 名簿収入・利息ほか
合計	12,028,000	16,821,400	△4,793,400	

支出の部

費目	今年度予算	前年度予算	増△減	備考
会議費	1,200,000	1,200,000	0	新年総会準備ほか
祝賀費	1,000,000	1,000,000	0	叙勲・卒業記念品ほか
餞別費	200,000	220,000	△20,000	平成29年度末退職職員餞別
慶弔費	100,000	100,000	0	供花
通信印刷費	600,000	600,000	0	維持会費督促状・納入札状・ 翠巒会館電話代ほか
旅費	140,000	120,000	20,000	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	3,950,000	3,950,000	0	同窓会報発行費および発送費
事務費	1,400,000	1,400,000	0	事務職員人件費・事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	100,000	0	賞状・記念品ほか
資料整理費	400,000	400,000	0	Webサイト管理費・ 各会報のデジタル化費用
補助費	1,500,000	2,600,000	△1,100,000	翠巒体育会・生徒活動補助 部活動補助
環境整備費	700,000	400,000	300,000	指月庭およびバラ園の維持管理費
雑費	600,000	600,000	0	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	0	4,000,000	△4,000,000	
予備費	138,000	131,400	6,600	
合計	12,028,000	16,821,400	△4,793,400	

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	14,128,915円
	平成30年度通常会計より	0円
	120周年記念事業寄付金	0円
	事務職員退職金積立	60,000円
	利息	1,085円
合計		14,190,000円

支出の部	120周年記念事業	0円
	母校充実費	3,000,000円
合計		3,000,000円



平成31年度維持会費納入のお願い

同封の振込取扱票により、郵便局又はコンビニエンスストアにて納入いただきますようお願いいたします。なお、ご住所、金額等を変更される場合は郵便局での扱いになります。(郵便局での納入は、できればATMのご利用をお願いいたします)。またホームページよりクレジット振込も可能となりました。詳しくは本同窓会報20ページをご覧下さい。



群馬県立高崎高等学校 同窓会報

発行人:串田 紀之

編集委員:田端 穂(54期) 吉永哲郎(54期) 大木紀元(58期)
若山 享(58期) 立見友孝(63期) 熊野卓司(66期)
新井重雄(78期) 竹内 聰(79期) 林 孝彦(81期)

編集 後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第52号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださいまして、誠にありがとうございました。(編集委員)

【編集委員からのお願い】

同窓会報1号(1967年)~6号(1972年)をお持ちの方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

群馬県立高崎高等学校 同窓会事務局

〒370-0861 群馬県高崎市八千代町2-4-1 TEL&FAX 027-320-6024 Eメール:suiran@email.plala.or.jp